## 「むじなつき」

ある家の女の人の態度がいつもと様子が大部ちがうので、これはきっとむじながついたと思った。

そこで石脇の和尚さんを呼んで事情を話し、むじなをとってもらうことにした。和尚は女の人を見て、

「これは、まさしくむじながついている。これから、この女についているむじなを私の体に移すから、私の態度がおかしくなったら、この棒で私をたたいてくれ」

と主人に言った。

暫くすると、和尚が変な動きをするので、これを見ていた主人は、先に言われた通りに、和尚を棒でもって何度もたたいた。さすがの和尚も

「助けてくれ！やめてくれ！」

と、音をあげたという。